

民間セクター・フォーラム 2022 開会の辞

サンダ・オジャンボ国連事務次長補 兼 国連グローバル・コンパクト CEO

(GCNJ 仮訳。原文は英語)

友人、同僚、そして来賓の皆様。

本年の民間セクター・フォーラムにご参加頂き、ありがとうございます。

2008 年以来、このイベントは、世界最大の課題に関する多様なステークホルダー間の対話と協力の機会を提供してまいりました。

今、我々は、これまでに無く、力を合わせる必要があります。

皆様、

我々が今日ここに集まる中、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」は、重大な危機に瀕しています。

気候変動、新型コロナウイルス、世界各地で勃発する紛争など、未曾有のグローバル危機が、過去 10 年間の開発の成果を着実に蝕んでいます。食糧不足、エネルギー・ショック、インフレは、富める国々にも、貧しい国々にも、大きな混乱を招いています。

昨年に引き続き今年も、世界では、SDGs の達成に向けた進捗が見られません。

世界最大の課題に対し、民間セクターによる解決策が必要であることは、我々皆が分かっています。気候変動対策ほど、これが当てはまる分野は無いでしょう。

気候変動は、持続可能な開発に立ちはだかる最大の課題であり、その最も壊滅的な影響を回避する為の時間は、残り少なくなっています。

地球の気温上昇を、目標である 1.5 度に抑えるには、この 2020 年代の終わりまでに温室効果ガスの排出を半減させ、2050 年にはネット・ゼロに到達する必要があります。これに対し、現在の各国のコミットメントは、遠く及ばないのが実情です 2030 年に向けた削減の誓約は、世界の排出量に対する影響が限定的であり、7.5%の削減しか見込めません。

このままでは、地球の気温は 2.7 度上昇し、異常気象による大規模で破壊的な災害が起こります。

皆様、

もはや一刻も無駄にできません。

政府、**そして**民間企業は、再生可能エネルギー革命により、化石燃料への世界的な依存を終わらせることを、最優先すべきです。

事務総長の、「5 項目のエネルギー計画」では、再生可能エネルギーに対する官民の投資を 3 倍に増やし、少なくとも年間 4 兆ドルにすることを目指します。この計画には、持続可能な開発を進めながら、エネルギー安全保障を強化し、気候変動に歯止めをかける為の重要なアクションが含まれています。

これらの目標を達成するため、再生可能エネルギーへの転換の起爆剤とすべく、企業は官民のパートナーシップを拡大する必要があります。また、世界の最も脆弱な人々や生態系のニーズに応える、公平かつレジリエントなエネルギー・ソリューションを推進しなければなりません。そして、ビジネス界は、豊かな国々と発展途上国の**両面**から、再生可能エネルギーに対する企業の投資を拡大すべきです。

このグリーン経済への移行は、公正かつ包括的であることが極めて重要です。今月、国連グローバル・コンパクトの「公正な移行に関するシンク・ラボ」では、この課題を克服する為の企業向けの新しい指針を発表いたしました。この中で、効果的な社会対話に参加し、ディーセントなグリーン雇用を創出し、誰一人として取り残さない為の、7 つの具体的なアクションを示しています。本日は、多くのシンク・ラボ参加企業・パートナーのご出席を頂いております。この重要な指針に対する、これらの皆様の貢献に、感謝いたします。

皆様、

我々は、立ちほだかる課題を前に、圧倒されそうになります。一方で、深刻な危機に直面しながらも、国連グローバル・コンパクトの 10 原則を遵守することで、多くの企業がサステナビリティにおいて前進できたことは、良い知らせです。人権、労働、環境、腐敗防止に関するこれらの原則は、SDGs を推進する、責任あるビジネス慣行の為の枠組みを提供します。

国連グローバル・コンパクトの SDG Ambition アクセラレーターには、既に 450 社以上の企業が、26 のローカル・ネットワークと共に参加登録しました。この 6 ヶ月間のプログラムは、SDGs の推進に貢献する革新的なビジネス戦略を開発し、実行する力を企業に与えます。

第3期のSDG Ambition アクセラレーターの募集は、間もなく終了いたします。世界を2030年アジェンダの達成に向けて再び軌道に戻せるよう、9月30日の締め切りまでには是非ご登録をお願いいたします。

投資に関しては昨年、「SDGsの為にCFO連合」を開設し、業界や地域を超えて持続可能な投資を促進しています。官と民の間という我々の立場を活かし、とりわけ発展途上国における投資の障壁を低くし、政府の支援や開発リソースを導入することができます。

我々の2022年版進捗報告書では、国連グローバル・コンパクトの全てのローカル・ネットワークで、会員企業がサステナビリティに対するコミットメントを高めている実態が明らかとなりました。年次調査に回答した企業の51%が、自社の中核的な事業戦略をSDGsに整合させていると答え、わずか35%だった2019年の結果から上昇しました。これらの企業は、気候、公正な労働慣行、ジェンダー平等を最優先事項として報告しています。

報告書によると、企業責任は取締役会によって一層推進されるようになり、より多くの企業がサステナビリティの進捗状況を公に開示し、自らのコミットメントに責任を持つようになっています。これは特に環境に関して顕著で、排出量と戦略的データの報告が11%増加しています。

国連グローバル・コンパクトは、全ての企業に対し、1.5度の道筋に沿った科学的根拠に基づく短期目標と、新たなネット・ゼロ基準に沿った科学的根拠に基づく長期目標を設定するよう求めます。

自ら宣言しただけの目標では、不十分です。企業は確かに、検証可能なターゲットを定め、最新の気候科学を反映し、透明性のある形で報告およびモニタリングしなければなりません。

国連グローバル・コンパクトもその創設パートナーとなった、SBTi（科学的根拠に基づく目標イニシアティブ）を通じて目標を承認された企業は、喜ばしいことに、目覚ましい進歩を遂げています。実際、SBTiに承認を受けた典型的な企業は、1.5度の軌道よりもさらに野心的で、求められる2倍の速さで排出量を削減しています。

しかし、人々や地域社会の幸福を脅かすような行為を避けるために、企業はさらに努力する必要があります。

この7月、国連総会は、清潔で健康的かつ持続可能な環境へのアクセスを普遍的な人権とすることを宣言しました。この決定は、環境と人権に関するコミットメントの履行を、企業と国家の双方が加速させる為の道を開くものです。

こうした中、本日、新たに「ビジネスと人権アクセラレーター」を発表できますことを、嬉しく思います。この6カ月間のプログラムは、継続的なデュー・ディリジェンスのプロセスを通じて、業界や地域を問わず企業を活性化します。アクセラレーターは、優先して取り組むべき最も深刻な課題を見分ける方法を明確にしつつ、企業がいつ、どこで、どのように人権に負の影響を与えるかを理解できるようになるべく設計されています。

すべての企業の皆様に、今日から「ビジネスと人権アクセラレーター」に加わることをお勧めいたします。正しい知識とツールがあれば、皆様の会社は人権の擁護者となり、善に導く強い力となれるのです。

友人、そして同僚の皆様、

ビジネス界によるエンゲージメント、及びコミットメントのレベルが高まっていることに、私は勇気づけられております。しかし、事務総長の「5項目のエネルギー計画」を支援し、誰一人として取り残されない公正な移行を実現する為、民間セクターはさらに努力する必要があります。

我々の前にある道のりは、険しいものです。それでも、皆にとって善いことのために企業が協力すれば、変革は可能です。

結局のところ、私たちは目の前にある問題の大多数を解決する方法が分かっており、グローバルな視点から見れば、資本資源には事欠きません。しかし、私たち**皆が**、人類への長期的な投資にコミットしなければならないのです。

ありがとうございました。今後の対話や協力に、期待しております。